投信フォーラム2010in富山

～資産運用は時間を味方につけましょう～

低金利時代が続く中、将来に備え、いかに個人金融資産を蓄積、形成していくかが重要な問題になっている。資産運用の必要性や投資信託の仕組み、メリットなどを紹介する「投信フォーラム2010in富山」がこのほど、富山市牛島新町のタワー111で開かれた。ファイナンシャルプランナーの馬養雅子氏が、資産運用のノウハウなどを説明。富山市出身の商品ジャーナリスト、北村森氏による特別講演も行われた。

主催／投資信託協会、北日本新聞社、全国地方新聞社連合会
後援／金融庁、金融広報中央委員会、富山財務事務所、大阪証券取引所、信託協会、全国銀行協会、東京証券取引所グループ、日本証券業協会、日本損害保険協会、不動産証券化協会、共同通信社

「投資信託で"草食系"の資産づくり」

ファイナンシャルプランナー 馬養 雅子氏

長期で保有するのが基本

資産運用がなぜ必要なのでしょうか。日本は少子高齢化が進み、人口減少と高齢者の増加によって、社会保険料や税金の負担が大きくなってきます。給料は以前のように右肩上がりではありません。既に公的年金を受け取っている人も、年金だけでは厳しい状況になってきました。収入が減る中で支出が増えていくわけですから、家計が厳しくなるのは当然といえます。

リスクは予測が可能

改善策は3つしかありません。1つは収入を増やす。これは一番確実ですが、そう簡単ではありません。2番目は支出を減らすことですが、節約には限度があります。第3の道として、資産を運用してお金を増やすことが重要になってきます。

ただ、預貯金中心では金利も低く、資産を増やすことは困難です。金融商品という大きな枠で考えると、預貯金はその一部に過ぎません。元本が保証されている金融商品というのは非常に特殊なものです。金融商品は値動きをするのが当たり前であり、上手に利用していくことが大切になってくるわけです。

金融商品のリスクというのは、値動きの大きさを指します。大きく変動するものはリスクが高く、あまり変動しないものは、リスクが低いということになります。金融商品のリスクは予測が可能です。日本の株の平均株価は、この10年の間で一番高かった時と低い時が分かっていますので、この先何年かはその範囲内で動くことが予測されます。むやみにリスクを恐れる必要はありません。

運用や投資では、絶えず値動きを見て1日で売り買いを完結させるデイトレードのような勝ち負けの世界があります。FX（外国為替証拠金取引）などのハイリスク・ハイリターンの投資もあります。このような投資は、今どきの言葉でいうと"肉食系"の投資ということになります。

草食系は分散投資で

一方、生活資金の一部を運用する投資は"草食系"の投資と言えます。草食系の資産づくりは、リスクをコントロールしながら、じっくり資産を増やしていきます。こつこつ積み重ねて最終的に増えていけばいい、という投資の仕方です。

肉食系と草食系では投資の手法が全く違います。肉食系は集中投資で狙ったら一直線で行くのに対し、草食系は「分散」がキーワードになります。リスクを小さくする最も有効な手段が分散です。分散には「資産の分散」と「時間の分散」があります。

資産の分散とは、違うタイプの金融商品を組み合わせることです。株と債券の価格は逆方向に動く傾向がありますので、両方に投資することで資産全体の値動きが抑えられます。株についても、円高、円安ともに対応できるように、複数企業の株を分けて持つようにします。このように資産を分散するのが基本中の基本です。

時間の分散とは、金融商品を一度に買うのではなく、何回かに分けて買うことです。どんなにいい金融商品でも、買った日が一番価格が高かったということもありえます。時間分散を細かくするのが積立投資です。同じ金融商品を毎月決まった日に、同じ金額で買っていきます。積立は分散投資には非常に有効です。

コアとサテライト

このような草食系に一番向いている金融商品が、投資信託です。もともと分散投資するように設計されているからです。日本の株に投資する投資信託は、少ないものでも30銘柄ぐらいに投資していますから安心です。1万円程度から買えるものが多く、ハードルが低いと言えます。たくさんの種類から自分に合ったものが選べ、海外の債券や不動産など個人では買いづらい金融商品にも投資できます。

投資信託は証券会社や銀行、郵便局で購入できますが、大抵どこでも積立ができるようになっています。投資信託はじっくり長期で保有するのが基本です。長ければ長いほど増え方も大きくなることが期待できますから、若い人にも利用していただきたいと思います。

投資信託は、投資家がお金を出してファンドを作り、ファンドマネジャーが株や債券などで運用し、利益が出たら投資家に返すという仕組みです。どこ（国、地域など）の、何（株・債券・不動産など）に、どのように（アクティブ運用、インデックス運用）投資するかはあらかじめ決まっています。投資信託には販売会社のほか、運用会社と信託銀行がかかわっています。実際にファンドを運用しているのは運用会社で、各ファンドが持っている株や債券は、信託銀行が預かっています。

運用に際しては、コアとサテライトという考え方が重要です。日本の株、債券、先進国の株、債券の4つをコアとすることが基本となります。サテライトとして新興国の株や、REIT（不動産投信）などの商品を組み合わせることで、幅広い分散投資ができます。何より資産全体のバランスを考えながら運用していくことが大切です。

まがい・まさこ 金融商品や資産運用などに関する記事を新聞・雑誌に多数執筆しているほか、マネーに関する講演や個人向けコンサルティングを行っている。「株・投資信託・債券・外貨がわかる事典」「知ってトクする数字のカラクリ・投資信託」「キチンと分かる外国為替と外貨取引」など著書多数。

投資信託の仕組みやメリットについて紹介した「投信フォーラム2010 in 富山」

「遊びのおカネ、暮らしのおカネ」

北村 森氏

物語性が生むヒット商品

今わたしが手に持っているのは、世界で一番値段の高いビニール傘です。5千円しますが、すごく売れています。直径が110センチもあり、骨が丈夫で握り手が滑らず、ビニールが少し赤みっぽく、光の加減で顔が血色良く見えます。何に使う傘かというと、選挙です。東京の小さな会社が作っています。

プラスアルファの時代

人は何にお金を払うのでしょうか。商品の機能やデザイン、ステイタス、気持ち良さなど、いろいろありますが、この傘のように、商品を持ったら自分はどういう物語が紡げそうなのか、そういうプラスアルファのところに、消費者はお金を払う時代になってきています。

遊びのおカネで3つの不思議な話をします。旅館での「心づけ」というのは何でしょうか。結論から言うと心づけは払わなくてもいいのです。そもそも海外のチップと心づけは全く違います。有名老舗旅館の主人に聞きましたが、心づけの有無でサービスは変わりません。心づけというのはお金を振る舞う遊びの世界です。旅館に行って、お大尽っぽい遊びができる瞬間を宿が提供しているのです。

高級すし屋の時価とは何でしょうか。なぜ値段を示していないのでしょう。東京で行きつけのすし屋の主人に聞いてみると「大切な人を招くなど接待で利用されることが多いので、値段は出しません」と話してくれました。実は値段は全部決まっているそうです。一見の客の場合は、仕入れ値に従った値段にします。常連には仕入れ値にかかわらず、通年で一定の値段にしておくのだそうです。なるほどと思いました。

3つ目に、ホテルの割引宿泊料金とは何でしょうか。ホテルに電話すると、予約係は正規料金を答えます。その時「一番安いプランは何ですか」と聞かなければなりません。そうすると、いろんなプランを教えてくれます。遊びのおカネにもいろいろ約束事があるということです。

真剣勝負かける消費者

暮らしのおカネについて考えます。20年余り、一貫して商品の動向や消費トレンドを研究してきましたが、今ほど消費者が買い物に真剣勝負をかけている時代はないと思います。バブル期はどんどんおカネを使いました。そういうときは真剣勝負にはなりません。

バブル崩壊後は倹約しようと最小限の必要なものを買うだけですから、これも真剣勝負になりません。

97年に消費税が5%に上がる前、車や高額の家電製品が売れました。今が買い替え時期です。自分にとってその商品がどれくらい重要なのか、どれを買うのが一番得なのかを真剣に考える時代になっています。消費不況と言われながら、香水入りのティッシュペーパーや高価なビール、ハンバーガーなど、ちょっとぜいたくな商品が人気です。決してモノが売れない時代ではなく、ヒットしている商品はあるのです。

マーケティング超えて

最近「あ、なるほど」と膝を打ったヒット商品を紹介します。まずキングジムという事務用品の会社が出した「ポメラ」です。文字を打つだけです。軽くて起動時間が短く、すぐに打てます。マーケティング至上主義からはまず出てこない商品です。

ソニーの簡易ナビ「nav-u NV-U35」は車に付けるだけでなく、持ち歩き、自転車にも付けられるのが特徴です。ルート探索するとモードによって運ぶ道が違ったりします。1台3役で生活が楽しくなります。「チンしてこんがり魚焼きパック」（小林製薬）は本当にうまく考えた商品です。電子レンジで結構焼けた感じになります。1人暮らしの人やお年寄りにも安全に使えます。

今売れている商品というのは、この商品で生活がどうなるかということに対して、上手に消費者にイメージをつかませています。購入に悩んだ時、この商品を買ったら自分の生活がどう変わるかイメージした後に、わたしは買うようにしています。

きたむら・もり 富山市生まれ。慶応義塾大学法学部政治学科卒業。2005年、「日経トレンディ」編集長に就任。07年、同誌の発行人を兼務。08年に退職し、商品ジャーナリストとして活動。テレビ・ラジオ番組のコメンテーターとしても活躍。著書に「ヒット商品航海記」（共著）など。

企画・制作／北日本新聞社営業局

資産運用は、時間を味方につけましょう。

投信協会 社団法人 投資信託協会

リスクを小さくするための方法、知っていますか?
「資産の分散」「長期の保有」そして「時間の分散」です。

値動きのある投資信託は、時間を味方につけて、
少しずつ分けて購入することでリスクを分散。
資産運用、考えてみませんか。

詳しくは投資信託協会のホームページ、ガイドブックをご覧ください。

投資信託を知りたい方に

無料 ガイドブックプレゼント（各1冊セット）

ご希望の方は、投資信託協会ホームページからお申し込みください。ハガキの場合は郵便番号、住所、氏名をご記入の上、下記までご請求ください。（お届けは2週間前後となります。）

〒103-0026 東京都中央区日本橋兜町2-1 東京証券取引所ビル6階
（社）投資信託協会KN係

※いただいた個人情報は、本ガイドの送付のほか、当協会が開催する講演会やセミナーのご案内に使用することがあります。

（2010年版） （2010年版）

携帯電話はこちら

投資信託協会では各種講演会やセミナーを開催しています。詳しくはホームページのセミナー情報をご覧ください。

投資信託協会 検索 www.toushin.or.jp